

THE NEW
DARE TO DISCIPLINE

JAMES C. DOBSON

新・思い切つて
しつけましょう

ジェームス・ドブソン著

ファミリー・フォーラム・ジャパン

THE NEW DARE TO DISCIPLINE

Copyrights © 1970, 1992 by James C. Dobson
All rights reserved.

This book is a completely revised edition of *Dare to Discipline*, first published in 1970 by Tyndale House Publishers, Inc, Wheaton, Illinois.

ファミリー・フォーラム・ジャパンが、ティンデール社より日本語翻訳権を取得しました。

●特別な但し書きがない限り、聖書の引用は新改訳聖書の第3版です。

ダニーとライアンと、その母シャーリーに
愛をこめて、本書と私の人生の残りの日々を捧げる

（一九七一年に書かれ、20年以上後に再確認した献辞）

目 次

第1章 子どもの挑戦を受けて立つ

8

第2章 しつけの原則 (上)

14

抑圧はいけない 甘やかしもまちがい

バランスが鍵

原則1 親を敬うことを教える

第3章 しつけの原則 (下)

36

原則2 罰を与えた後に、最高のふれあいがある

原則3 小言を言わずにしつける

原則4 物質主義のとりこにならない

原則5 愛としつけのバランスをとる

第4章

質問と回答

60

第5章

じほうびの使い方（上）

86

原則1
じほうびは、すぐ与える

原則2
ものをあげる必要はない

質問と回答

第6章

じほうびの使い方（下）

114

原則3
強化によって得た行動のほとんどは、じほうびが遅れると消える

原則4
親も教師も、強化の法則に動かされる

原則5
親は、望ましくない行動を強化し望ましい行動を弱めることがある

質問と回答

第7章 学習面のしつけ

睡眠学習の「実験」 勉強に近道はない 小学校でのしつけ
質問と回答

第8章 遅咲きの子と学習遅滞児

遅咲きの子 神経組織の発達遅れ ホームスクーリング
学習遅滞児 1 必要なら一対一で読み方を教える 2 落ちこぼれの屈辱を
与えない 3 成功は成功を生む

第9章 能力を生かせない子

能力を生かせない子とは 三つの誤った反応 二つの解決
まとめ 質問と回答

第10章 性と善悪のしつけ

199

誰が話すのか なぜこれほどに抵抗があるのか いつ何を教えるか
ペットを使うなら育ての親を確保してから 終わりに 質問と回答

第11章 お母さんのために

227

付録 薬物乱用について

240

巻末注

248

改訂版の出版にあたって

252

著者について

253

第1章 子どもの挑戦を受けて立つ

本書は、子どもと子どもを愛する人々のために書きました。初版が出たのは、私が南カリリフォルニア医大の小児科教授だった一九七〇年代初めです。うちの子どもたちがまだ就学前だったため、子育てについて助言をするのは危ういことでした。試合が始まつたばかりなのに、もう勝つたようなことを言うコーチのようなものです。それでも、学者としても臨床経験からも、子どもをどう育てるべきか、子どもが必要なものは何かについて、私には固い信念がありました。

『思い切ってしつけましょう』は、初版以来30年以上にわたり広く支持され、200万部以上読まれました。この間に私の視野も広がり、洞察も深められたように思います。多くの家族にわかり、子育てに関する多くの権威者や同僚の見解を学びました。2人の子は思春期をすぎて、今では自分たちの家庭を築いています。今、こうして時計の針を戻して、最初に取り組んだテーマに戻ることができるのはすばらしい特権です。

子育てや子どもの成長に関する私の見解が、この間に大きく変わったと考える方もあるでしょうが、そんなことはありません。確かに、初版が出た頃とは社会背景は劇的に変わりました。そのため、改定増補することになったのです。60年代後半から70年代初めにかけて吹き荒れた学生

新・思い切ってしつけましょう

運動の嵐はやみ、ウッドストック・フェスティバルやベトナム戦争は遠い記憶となり、大学のキャンパスは平静に戻り、反体制的ではなくなりました。

しかし、子どもは変わっていないし、これからも変わらないでしょう。良き子育ての原則は、家族というしくみを創造したお方が定めたものだから永遠に変わらないのだと、私はますます確信するようになりました。聖書の靈感を受けた原則は世代から世代へと受け継がれ、私たちの祖先の時代ばかりか21世紀にも当てはまります。不幸なことに、近頃の親の多くは、この伝統的な教えを聞いたこともなく、家庭でなすべき子育てという仕事について手がかりを持つていません。

3歳の反抗的な娘サンディーの扱いに困り果て、私に助けを求めて来た母親のことが忘れられません。親の目から見ても、サンディーは意志の強さでは母親勝りで、わがまま放題となつてしまつたのは明らかでした。

相談に来た前日の午後、その典型的なできごとがありました。ニコルス夫人（仮名）は、娘に昼寝させるつもりでしたが、おとなしくベッドにいそうもないと分かつていました。サンディーはしたくないことはしない子で、昼寝は彼女の午後のスケジュールに入つていません。

しかしサンディーはこの時、自分のしたいようにするより、むしろ母親を苦しめることに興味を持ちました。叫び声をあげ始め、近所中をうろたえさせるような大声でわめき、ニコルス夫人

の神経をすり減らしました。それから涙声でお水を持って来てと言つたりしてだだをこねました。ニコルス夫人は、最初は娘の言いなりになりませんでしたが、わめき声が再びピークに達すると降参しました。コップの水を持ってくると、この子はそれを押しのけ、「ママがさつさと持つてきてくれなかつたから、いらない」と言いました。夫人は、コップを持ってしばらく飲ませようとしましたが、その後、「もし5つ数えるうちに飲まないなり、台所に戻しますよ」と告げました。母親が数える間、サンディーはがんとして飲もうとしませんでした。

「みーっつ…よーっつ…いーっつーつ…」

ニコルス夫人がコップをつかんで台所へ向かうと、サンディーは「飲みたい」と叫びます。サンディーはこうしてママを困らせ、コーコーのように行き来させ続けたのです。

ニコルス夫人も娘も、育児の指南書を長いこと支配してきた役立たずで筋の通らない育児法の犠牲者です。母親は、「子どもといふものはいつかは大人の理性と忍耐に応えてくれるから、厳しくしつける必要などない」と書かれた本を読んでいました。子どもの反抗には敵意を発散させる効果があるので、むしろ反抗させるよう言わされました。専門家の勧め通り、子どもとぶつかつたとき、夫人は子どもの気持ちを代弁しようとしました。

「お水が飲みたかったのに、ママが持つて来るのが遅すぎたから怒つてゐるのよね」「ママがお水を台所に戻しに行つちや、いやなのね」

新・思い切ってしつけましょう

「お風呂をさせよつとするから、ママがきらいなのね」

さらに彼女は、親子の衝突は誤解か見解の相違にすぎないと受け止めるよりも言われていました。

残念ながら、ニコルス夫人も彼女の助言者も間違っています。母娘の争いは、単なる見解の相違ではありません。娘は母親に挑戦し、からかい、反抗していました。この親子の真っ向対決は、心と心の対話では解決しません。なぜなら、本当の問題は、お水とかお風呂などの具体的な状況とは関係ないからです。この実例を始めとして数知れない衝突の陰にある本当の意味は、サンディーが厚かましくも母の権威を拒んだということです。ニコルス夫人の対応しだいで、将来の親子関係、特に思春期の関係が決まってきます。

厳しく抑圧的で、心ないしつけの危険については多くの書物があり、それらの警告には耳を傾けるべき価値があります。しかし、親の指導を放棄することを正当化するために、抑圧的なしつけの悪影響がくり返し語られました。愚かなことです。意地つ張りな子が、小さなこぶしを握りしめ、ふてぶてしく両親に挑戦することがあります。これは、よく言われるような欲求不満や内なる敵意に動かされているのではなく、むしろ、親の限界はどこにあり、子どもに叫つことを聞かせる気があるのかないのかを知りたいだけです。

多くの善意の専門家は、「寛容さ」を強調してきましたが、子どもの反抗に対しても何の解決

にもなりませんでした。また彼らは、親が子を理解することの大切さを強調しました。それには賛成ですが、子どもにも親への従順について教える必要があります。

ニコルス夫人も同時代のすべての親も、どのように限界を定め、反抗的な態度に対してはどうすべきかを知る必要があります。それは、愛情と思いやりという枠組の中でするしつけです。しつけと愛情は相容れないと考える親にとって、そんなことは困難だと思えるでしょう。

本書はある意味で、健全で礼儀をわきまえた幸せな子を育てることに焦点をあてています。「しつけ」は、親子のぶつかりあいだけに限定されたことばではなく、本書ではもっと広い意味で用いられています。子どもは、自己訓練と責任ある行動も教わる必要があります。人生の義務と責任とをどのように果たすかを学ぶために助けが必要です。自制心も身につけなければなりません。学校や仲間たちから与えられる責任や、大人になつてからの責任を果たすことができる、人間としての強さが必要です。

そのような性質は教えられるものではないと言つ人がいます。私たちにできるいことは、せいぜい幼いときにつくことができるだけ楽な道に歩ませ、障害物をどけてやることだと。この自由放任主義は、もし子どもが望むなら学校では落第させ、自分の部屋をまるで「豚小屋」のようにし、飼い犬はおなかを空かせたままでいいと言つているようなものです。

私にはそんな考えを受け入れられないし、反証も十分にあります。子どもは真に愛され、一貫

新・思い切ってしつけましょう

して理にかなつたしつけをされる時にのびのびと育つのです。薬物乱用、不道徳、性感染症、破壊行為、暴力が蔓延する時代にあつて、私たちが大切にしている姿勢を子どもに身につけさせたいなら、成り行きまかせではダメです。自由放任の子育ては、失敗に終つただけではなく、むしろとんだ災難を招いたのです。

愛に基づくしつけ法は、正しく用いれば効果があります。互いにやさしい気持ちを持てます。親子が互いを大切にするならできることです。互いに愛し信頼すべき家族が、離ればなれになるのではなく、むしろ心と心が結ばれます。愛に基づくしつけをすれば、親は自らが信じる神を子どもたちに伝えることができ、先生方は教室でなすべき本来の職務を果たせます。子どもも人を敬うこと覚え、責任ある大人として生きられるようになります。

当然ながら、そのためには、勇気、一貫性、信念、勤勉さ、また熱心な努力が必要です。一言で言えば、混じりけのない愛情で「思い切ってしつける」ことです。では、そのための具体的な方法をご一緒に考えましょう。